

日本語ボランティアは どのような体験を通して活動を継続しているか —地域日本語学習支援の現場から—

松尾 麻里

学位取得年月：平成20年3月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 地域日本語教育、共生言語としての日本語教育、日本語ボランティア、M-GTA

【要旨】

本研究では、共生社会の実現に資する日本語教育の実践を念頭に、地域日本語教室の日本語ボランティアの体験を意識面から把握・可視化を試みた。M-GTAによりインタビューデータを分析した結果、ボランティアは活動の過程で、【予想できない質問】、【想定外のふるまい】、学習者との【距離のとり方が難しい】という困難を感じていることがわかった。これらの困難は、「日本語を教える」という行為を「母語話者の日本語」を言語形式として伝えることと認識していることに起因すると考えられる。またボランティアは丁寧な個別対応によって【(ボランティアが)支援し(学習者が)支援される】関係を形成し、一連の活動を通じて【自己の拡充感】を得ていることがわかった。学習者との関係は「日本語を教える」ことを基盤としているため一方的であるが、今後の方向性として「共生言語としての日本語」の生成を目的とする相互交流的な学習の導入によって、共生的な学習環境の創生を提言した。

(まつお まり)

フランス在住日系国際家族の日本人母親と国際児は 日本語継承をどのように意味づけているか

村中 雅子

学位取得年月：平成20年3月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 国際家族、国際児、言語継承、内的視点、意味づけ

【要旨】

フランス在住日系国際家族の日本人母親と国際児を日本語継承の当事者とし、少数派言語としての日本語継承が当事者にとってどのような意味をもつのか、当事者の内的視点から検討した。日本人母親は日本語継承を①自分と子どもをつなぐ、②自分が親として子どもに与えてあげられるもの、③バイリンガルというメリットの実現、④子どもの視野を広げる、と意味づけていた。一方国際児は①母親との関係を強める、②将来の可能性を広げる、③忙しい日常での面倒な勉強、と日本語継承を意味づけていた。それぞれ意味づけには当事者間の相互作用、社会との相互作用が見られ、日本語継承の意味づけは構成され続ける動的過程のなかにあることがわかった。

(むらなか まさこ)